

平成26年2月28日（金）

の



# 伸びる



多治見市立笠原中学校報No.13

3年生も残すところ7日で卒業式を迎えます。長いようで短かった3年間を振り返って、生徒の成長に驚かされます。多くのことを体験し、多くのことを考え、友だちとの関わりの中で、自分を育ててきた3年間だったのではないのでしょうか。保護者の皆様にとっても、思春期の子ども達との関わりの中で、考えることや悩まれることも多かったのではないのでしょうか。まずもって、生徒の門出を共に祝いたいと思います。

また、地域の皆様方にはさまざまなご支援を賜り誠にありがとうございました。

大雪も降った今年の2月、寒さの中でも、生徒は、それぞれの役割を自覚し、一年間のまとめと伝統の引き継ぎを強く意識した取り組みを行いました。学校に於いても「学校保健安全委員会」「学校評議員会」「第三者評価委員会」と、笠原中学校の一年間の取り組みをより客観的な立場から評価していただき、次年度へつなげる場をもちました。

## 自信と誇りを伝える・・3年生と語る会



2月12日（水）、3年生と語る会を行いました。

2年生が中心となって企画し、今まで学校の中心として活動した3年生から、アドバイスをもらおうと

同時に、4月には最上級生となる2年生、先輩と呼ばれることになる1年生が、自覚を持つ会です。

前半の会では各学級で1年生から3年生まで机を丸く並べて、気軽に話し合いました。下級生からの「どうすれば学級はもっとまとまるでしょうか?」「進路で大切なことや、難しいことはどんなことですか?」といった質問に、3年生は自身の経験から丁寧に答えていました。



後半の全体会では、3年間の歩みを振り返り、お世話になった先生からのメッセージの紹介、合唱の交流などを通して、伝統の引き継ぎが行われました。3年生は、自分たちの歩んできた3年間に思いを馳せ、自信と誇りを持って次の進路先へ進む決意を新たにす素晴らしい会になりました。

## 自信と誇りを伝える・・まとめの生徒集会

2月21日（金）、後期のまとめとなる生徒集会が行われました。各委員会から取り組みの成果と課題が話されました。自立・自律・共生の力を生徒自らが中心となって身に付けてきた生徒会活動です。笠原中学校全員のために、全員が役割を持って取り組んできました。意見交流では、「後期、自分ががんばってきたこと」というテーマで話し合いがもたれました。積極的な挙手発言が見られ、みんなのために活動する中で、一人ひとりが着実に力をつけてきたこと、「はあとふる」の仲間と高まり合ってい

こうという気持ち分かる意見交流でした。こうした活動を通して培った自信と誇りが、来年度のスタートに大きな力を発揮すると思います。笠中の伝統は、一人ひとりが培った自信と誇りによって受け継がれています。

## 学校保健安全委員会

2月5日(水)に学校保健安全委員会を行いました。一年間の学校安全・学校保健の取り組みと検診検査の結果などをお話しし、校医さんからご意見をいただきました。その中で、次のようなご指導をいただきました。

1. インフルエンザ、ノロウィルスの予防には手洗い、うがいの励行が欠かせない。特に手洗いについては20秒以上かけて、しっかりこすり洗う必要がある。
2. よりよい生活習慣の定着は健康の維持・増進だけでなく、学習の支えとなる。
3. PTAとの連携による校内の安全点検の実施等今後も継続して行いたい。

治療のすすめをもらっている人は、4月までに、きちんと治療し、気持ちのよいスタートが切れるようにしてください。

## 学校評議員会



2月19日(水)、授業参観と同時並行して、学校評議員会を開催しました。学校から今年の重点である「だれもが安心して暮らせる学校・学級づくり」「学力の向上」の2点から取り組みについてお知らせした後、参観のご感想も含めて、ご意見をいただきました。

1. 子どもたちが集中して学習に取り組んでいる姿を見てうれしい。やや発言の声が小さいので自信をもって発言できるようになってほしい。
2. 人権を大切にしよう「はあとふる」のいろいろな活動は今後、さらに大切になっていく。ずっと取り組んでいってほしい。

3. インターネット、ゲーム、携帯・スマートフォンによるトラブルやいじめが社会的な問題となっているので、家庭でもルールづくりを行うなどより関心をもって子どもを守っていく必要がある。
4. 登下校など生徒と触れ合う機会を大切にし、これからも声をかけていきたい。

## 第三者評価委員会

2月26日(水)、今年度行った評価やアンケートの結果、学級活動の授業参観、地域での様子などから、学校の取り組みについて評価をしていただき、次年度へつなげるためのご助言をいただきました。

1. 生徒が積極的に活動できるよう先生方の配慮がよくなされていた。
2. 生徒会を中心に、自分たちで生活を高めていることよくわかった。それが伝統となっているのもうれしい。
3. 携帯を買い与えるなら保護者が使用のルールをしっかりと親子で決めるなどの配慮がますます必要になってきている。今後も働きかけて欲しい。

子どもたちの中で「自分の思いを伝える」「我慢する」こと

多治見市教育委員会親子が育つ多治見の家庭教育「親育ち4・3・6・3たじみプラン」にかかわって、公民館や児童館・児童センターへ出かけて、親子のふれあい講座などでの様子をみせていただいた時のことです。初めのうちはそれぞれの親子で別々に活動している。そして、親が他の親とかかわることで、かかわりの輪ができる。しばらく後に、親のひざにかかえられていた子が動き始め、周りのおもちゃや遊具で遊び始める。やがて、子ども同士で同一の遊具などで順番を競ったり、一緒に遊んだりし始める。その後、子ども同士で順番を競う中で、自分の思いを伝えたり、我慢したりすることを始めていました。

幼児の時はもちろん、小・中学生も同級生や年齢の違う子ども同士でのかかわりが、その子の社会性の基礎となります。そして、親同士がつながり、かかわりあうことが子どもたちにとって良い見本となります。